

天遊 大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Winter 2019 **Vol.49**



ラボ訪問

授業探訪

STUDENTS NOW!

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS

特集

大阪の教育力を結集し、次世代教員リーダーを養成する

連合教職大学院

大教大
NAVI **天**

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込ませると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学

大阪の教育力を結集し、次世代教員リーダーを養成する



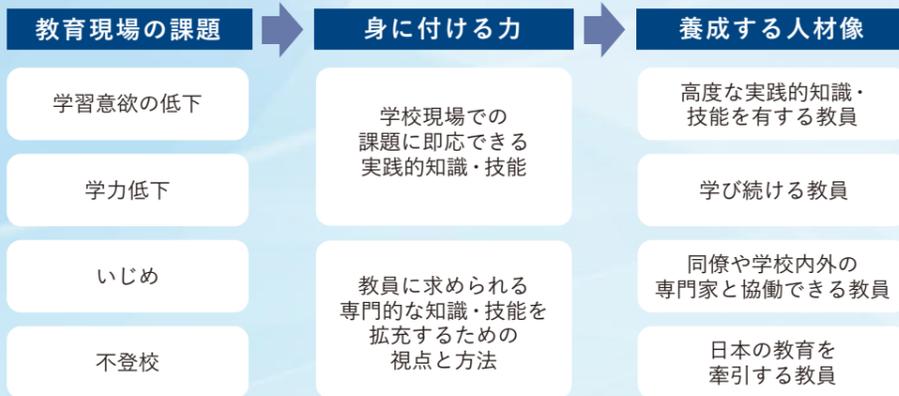
連合教職大学院

大阪教育大学連合教職大学院は、平成27年4月、教員の資質・能力を向上させ、次世代教員リーダーとして学び続ける教員を養成するために、大阪教育大学を基幹大学とし、関西大学及び近畿大学と国立・私立の垣根を越えて連合し設置されました。大阪府、大阪市、堺市、豊能地区の各教育委員会とも連携し、大阪の教育力を集結したオール大阪の体制で教育研究を推進しています。

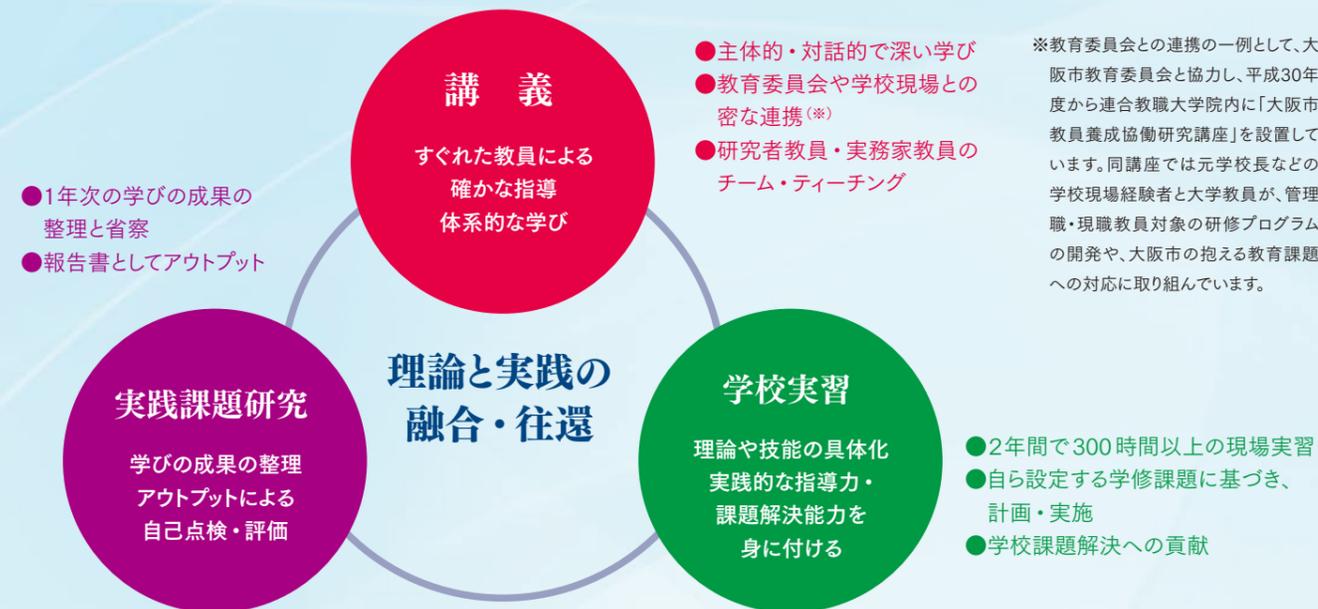
平成31年4月には、1専攻4コース、定員150人を誇る規模に拡充しました。

教職大学院とは

近年、子どもたちの学ぶ意欲の低下や社会意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校、家庭や地域の教育力低下など、学校教育の抱える課題が複雑化・多様化する中で、こうした変化や諸課題に対応し得る高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量のある教員が求められています。こうした社会の要請に応え、教員養成教育の改善・充実を図るため、高度専門職業人養成に特化した専門職大学院として創設されたのが教職大学院です。



教職大学院における学び



コース情報

コース	対象 主な修学キャンパス	養成する人材像	入学定員の目安
スクールリーダーシップコース	現職教員等 天王寺キャンパス (昼夜間開講 ^(※))	教員集団をリードし、保護者、地域住民等と協働して、学校及び地域の新しい教育課題を解決するために求められるすぐれたリーダーシップを発揮できる教員	30人
援助ニーズ教育実践コース	現職教員等及び学部卒学生等 天王寺キャンパス (昼夜間開講 ^(※))	多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を探究し、「チーム学校」の考えに基づき、学校内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員	30人
教育実践力コース	現職教員等及び学部卒学生等 柏原キャンパス (昼間開講)	児童生徒に即した実践的で高度な学習指導・学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員	80人
特別支援教育コース		特別支援教育の対象となる子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身につけ、また特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員	10人

※注) 基本的な授業開講は、夜間(6時間目18:00～、7時間目19:40～)ですが、土曜日開講授業、夏期集中講義等一部の授業については昼間に設定される場合があります。また、学校実習科目については、昼間に実施されます(現職教員等の場合は、原籍校等に動めながらの学校実習も可能としています)。

進路状況

本連合教職大学院では、平成31年3月には3期生が修了し、通算の修了者数は102人(うち学部卒院生51人)となりました。平成28年度は教員採用率100%、平成29年度は94%、平成30年度は95%など、これまで教員採用に高い実績(講師含む)を挙げてきました。



教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について(大阪市)

大阪市の教員採用試験で校種「小学校」及び「中学校」の第2次選考で合格と判定された人が、教職大学院に進(在)学し、教職大学院の専門職学位課程修了後の採用を希望する場合は、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長することができます。※詳細については、大阪市の教員採用試験の要項をご確認ください。

教職大学院生のある一日

学修課題

実生活の問題解決を軸にした各学年および教科等に関連づけたプログラミング教育

スクールリーダーシップコース 1回生

金川 弘希さんの場合

現職教員(大阪市立苗代小学校勤務)



教職大学院の授業で学んだことを勤務校の授業で**実践**し、その後に振り返りを行うことによって、より理解度を深めます。学びを校内でもすぐに実践できることは、教職大学院の醍醐味そのものです。

教職大学院を知る! /

ワード解説① 【理論と実践の融合・往還】

教職大学院では、専門職としての教員に必要とされる力量を獲得し、さらに発展させることができるカリキュラムを提供します。大学キャンパスでは、学習指導法、生徒指導や学級経営等について、その理論や実践動向等を学びます。特に、全院生が履修する研究科共通科目では、研究者教員と実務家教員のタッグによるチーム・ティーチングにより授業を展開します。また、教育現場では、2年間で300時間以上をかけて実施する学校実習等において、それらを実践的に探究して、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、理論と実践の融合・往還を図るカリキュラムを構築しています。

教職大学院を知る! /

ワード解説② 【RM】

RMとはリフレクション・ミーティングのことです。リフレクション(reflection)の意味は、熟考、内省、省察、回想などです。すなわちRMとは、過去と現在を見つめ、未来の行動や指針をつくる活動(ふりかえり)のことです。RMには、個別RM、コースRM等があります。特に学校実習科目や課題研究科目では、指導教員と個別に、あるいはコースの院生と教員全体で確認するためのRMの機会を大切にします。

スクールリーダーシップコース

教育実践力コース

月~金	勤務 7:30~17:00 (勤務時間は8:30~17:00)										教職大学院へ 移動	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10	個別RM 21:30~		
	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時		
授業曜日		1限 8:50~10:20	2限 10:35~12:05			会議	3限 12:55~14:25 「オーラルコミュニケーション上級」 (学部の授業を受講)	4限 14:40~16:10	5限 16:25~17:55							
実習日	実習開始 8:00												実習終了 16:30			

学修課題

小学校英語科における異文化理解を深める教材の開発

教育実践力コース 言語と文化領域 1回生

首藤 紗果さんの場合

学部卒院生(本学教育学部2019.3卒)



第2・第3タームでは、週に2回**学校実習**があります。私は附属平野小学校で実習を行っています。教職大学院2年間を通して行う研究の足掛かりとして、第2タームの実習では観察を中心に行い、実習クラスや学校全体・自身の学修課題に関わる小学校英語の様子を知ること、児童の実態や英語教育の現状把握につとめました。火曜日・金曜日が基本的な実習日とされていますが、実習校や指導教員と相談の上、各自で設定することができます。私は、実習校で外国語(英語)の授業がある曜日に合わせて実習日を設定しようと考え、教職大学院で受講する授業を調整しました。

日中は通常の授業だけでなく、校内の今年度の研究テーマであり、私の教職大学院での学修課題でもあるプログラミングについて、研究部長として校内の研究を進めています。質問紙調査などの研究方法や**理論**については教職大学院の先生方にご助言をいただいています。

この日の6限は、「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」。7限は、「教育研究方法演習」です。また、指導教員の板垣先生とは、火曜日の7限終了後に、個別RMを行っています。**RM**では自分の研究していることについて報告や相談をしたり、学会情報についてレクチャーを受けたりしています。現場では得ることのできない情報ばかりで、すごくありがたいです。

講義以外の空き時間には、大阪教育大学の留学生と一緒に、異文化理解のための授業づくりを行い、柏原市の小学校の「総合的な学習の時間」で授業を実施しています。また、学部時代からメンバーとして活動している学生プロデュースの震災復興コンサートの企画運営にも携わり、将来教員になる際に生かせるような活動をしています。

第1タームの「教育実践の研究手法[言語と文化]」という授業では、専門教科の新学習指導要領の変更点をおさらいした後、授業分析の視点を学び、小学校・中学校・高等学校の授業を実際に分析して意見交換しました。また、自身の学修課題を盛り込んだ授業案を構想し、発表も行いました。このような領域別の授業では、国語教育・英語教育の学生と一緒に学びます。教科は異なりますが、同じ言語に関する科目という面では共通点もあるので、授業内の意見交換では得るものが多いです。私は小学校の教員をめざしていますが、この授業では小中高の英語教育について触れられたので、小中連携・中高連携の必要性にも目を向ける良い機会となりました。教職大学院の授業は、実際に教師になった時使えるような**理論と実践**を学んだり、教材を開発したりと、学部の授業よりも一歩二歩踏み込んだものが多いと感じます。

教職大学院を知る! /

ワード解説③ 【学校実習の実習先(連携協力校)】

現職教員は、原則勤務校。現職教員以外は、自身の学修課題等を踏まえ配当されます。

教職大学院を知る! /

ワード解説④ 【学部開設授業科目の履修】

大学院での教育・研究に支障のない範囲で、修業補完(専門知識向上のための基礎的知識習得など)のため、一定の条件のもとで学部開設授業科目の履修申請が可能です(修了要件の単位数に含むことはできません)。



インタビュー動画が見られます。 **大教大 NAVI 天**

▶ 社会変革の主体 教師の道を“選択”する気概を

「高校の国語教師として19年。その後大阪府教育委員会。大阪教育大学とは指導主事時代に研修担当をしていた頃からの縁で、いい教師を育てなければと思ったのもその頃からです。本学へは最初交流人事で、その後一旦府に戻り3校目の校長で高校教師としてのキャリアを締めくくった後、本学の教職教育研究センター所属の教授と戻り7年目です」と島崎教授が少し懐かしそうに話し始めました。

「教師になったのは、CALLING、つまり天職を感じたからです。大学4年まで応援団長で、有名企業から声がかかる時代でした。内定も得ますが、応援団長という属性で評価されたことに釈然とせず、いっそ全く関係ないところをと教員採用試験を受けました。もちろん予め考えた志望動機をもって臨

みましたが、ちょうど、私が答えるその時、面接会場の隣の大手前高校から吹奏楽の練習する音が聞こえてきました。ホルンの音でしたがそれを聞いて思わず「こんな音を聞きながら仕事ができるのは学校の教師しかないと思います」と頭に全くなかった言葉が出てきました。その瞬間、「これが本心じゃないかな」とも思いました。ホルンのCALLINGに応じて教師になった。「自分のいる場所はここ(学校)だ」という何か確信のようなものを得たのです」

指導力不足教員研修を主担し、自分の気持ちを偽って諸々の理由で教師になった。教師という仕事にCALLINGを感じない人が多かったと振り返ります。「論語に『四十にして惑わず』とありますが、それを解釈するうえで『迷うと惑うは違う』と唱えたのが

江戸時代の儒学者の伊藤仁斎です。迷うとは、どこにでも行けるがどの道に進むか躊躇することで、惑うとは、心が決まっているのにそれを阻むいろいろな制約や自信のなさが心の上に杵としてかかって自分の志を生かすことができないことを言います。惑ったまま教師になると、かっこ悪くて生徒たちに失敗談も語れません」

「大学生や高校生も、惑っている人が多いように感じます。成績や親の考えなどの制約が枷になって自身の心を伸ばす方向に進めない。残念ながら、国際調査を見ても、志望動機を社会的貢献といった志で答える日本の教員の割合は他国より低く、特に若手で減少しています。『しんどい』社会からのSOSやCALLINGに応じて『社会を変革する主体』としての教師の道を選択してほしいと思います」

島崎先生はこれらの話を、教員志望2回生の必修、教職入門の授業で最初に必ずし、迷う学生には、実習以外でも学校へ行く機会を与えるといいます。「現場の風、学校なら子どもたちの声に『是非ともあなたが必要です』という声を聞くことで、惑いを振り払ってほしい。そのうえで本当に『教育とは何か』ということをもっとラジカルに考える力を大学で養ってほしいのです。言葉にしっかりこだわり、指導とは何なのかをきっちりと話ができるように。面接練習も大切ですが、そういう意識で大学生活を送れば、頭の中が真っ白になった時、本物の自分の言葉が出ます。これは教師となっても同じで、生徒に向き合うときマニュアルなど通用せず、頭の中が真っ白になるような事が限りなくあります。その場どう対応するかそこで教師の真価が問われます。AIにできない教師の力があるとすれば、それはマニュアルやルーティンのないところで自分の道を拓いていく力ということになるのではないのでしょうか」

今後も教師教育に尽力し続けたいと語る島崎教授は眼差し熱く、でも穏やかに続けます。「よい教師とは主体的な教師。主体とは何かを現職教師向けの研修でも常に問いかけます。どんな主体になるのかということをも具体的に意識して自分が動けば、人間も世の中も変えられる。世の中を良くする主体になり、そんな主体を育てるのが教師です。気概を持った教師を育てたいです」

教職教育研究センター 島崎 英夫 教授

SHIMAZAKI HIDEO



授業探訪



大教生はどんな授業を受けているのか？ 講義室をのぞいてみました。

教育心理学プロジェクト演習A

教育協働学科 教育心理学講座 **安達 智子** 准教授

会議テーブル状に机を集め、ぐるりと着席した学生らは各自ノートパソコンで、授業管理システム(Moodle)で事前に共有されたデータ資料を見る準備をしています。机には個性豊かな学校案内のデザイン案が8つ広げられました。「教育心理学プロジェクト演習A」、教育心理学講座の安達智子准教授のゼミ。今日は、芸術表現講座芸術専攻美術・書道コースのデザインゼミ生8人が加わりいつもより賑やか。大阪府立八尾翠翔高校から委託されデザインゼミ生が制作した「2019年度学校案内」のデザイン案を題材に、安達ゼミ生が調査・分析した結果を報告し、双方でディスカッションするという領域横断型のセッションが始まりました。安達准教授と、デザインゼミ担当で芸術表現講座の江藤亮准教授はオブザーバーとして様子を見守ります。

「八尾翠翔高校生304名と本学学生120名にアンケート調査を実施、質問紙の作成では心理学実験になじまない内容を省き、各ポスター制作者の意図や狙いの観点を項目に組み入れました。分散分析、t検定、重回帰分析などの分析手法を用い、入学したいと思う魅力的なパンフレットはどのようなかを、明るさや利便性などの観点から分析した結果を報告します」。安達ゼミ生が概要説明とそれぞれの分析結果を報告し、ディスカッションへ進みました。

「報告からすると枠などで囲ったデザイン案に利便性が高い結果が出たということですか？」学生同士のディスカッションが落ち着くと、江藤先生がおもむろに質問しました。「デザインの世界では、情報のグループを構築するため、文字間や行間といった『余白』をどうデザインするかが肝要です。言葉でいうと時間的な『間』。話し方がうまい人には『間』がある。デザインに慣れてない人ほど余白を恐れ、そこに図形や罫線を入れてしまいがちですが、結果的に視覚的なメリハリに欠け、情報のグループもわかりにくくなります」。これに安達ゼミの学生が応じます。「報告のうち、その考察は利便性による順位結果を見たときに、上位にランクされたパンフレットは他と比べて罫線や区切りではっきりしていると感じた私の個人的見解を加えたものでした。多読性、つまり、読みやすさの観点では、確かに余白を因子にした分析結果のほうに有意差が出ていました」。江藤先生もフォローします。「デザインを作る人間は、自分のデザインの考え方や好き嫌いで良し悪しを判断し、読みやすいと感じることもあるのでこのような客観的な分析結果を知ることの意味を感じます」。学生も「回答時間が短く、利便性と多読性を切り離せず、回答した可能性も考えられます」。分析側と制作側の立場や認識をきちんと共有するために不要な「隙間」ではなく、誤解のない理解や適切な関係性を繋ぐための意味のある「間」が作られるような議論が続きました。

この授業のねらいについて、安達先生は「プロジェクト演習は、様々な問題を教育・心理・福祉の視点から理解し検討する方法を身につけることを目標としています。なかでもゼミ生には、心理学研究の知識やスキルを活用して他者と



協働できる力や地域社会に貢献できる力をつけて欲しいと思っていました。そして彼等は、この共同プロジェクトを通じてその力を習得してくれたと思います」と語りました。

立場の違う者同士が協働して何かを作り上げるのは容易ではありませんが、学生たちはそれぞれの専門分野を高めながらその実現に挑んでいます。

【授業DATA】

主な対象学生：学部3回生
開講期：2019年度前期 金曜3限

Students Now!

スチューデント ナウ

大教大 NAVI 天

インタビュー動画が見られます。



問題を自分で解決する力を育む教育をめざして

教職大学院 高度教職開発専攻 教育実践力コース 1回生 **大槻 一貴さん** (湘南工科大学卒)

関東の大学で数学の教員免許取得後、本学教職大学院に入学した大槻一貴さん。「教職大学院には専用の協働学習室があり、院生同士が気軽に研究について話ができます。異なる教科や領域の視点から得るものも多く、互いに刺激し合える大切な場所です。大学院進学を機に大阪に出てきたこともありネットワーク作りも兼ねて自分の授業とは違う教室を覗きにも行きますが、どこに行っても本当に学ぶことが多いです」

教員をめざしたきっかけについては、「高校生の頃、将来の職業、自分の未来図の理想を考えた際、中学時代のクラブの顧問の先生が浮かびました。その頃の僕にとって、人の役に立ち、人から尊敬される職業としてすぐに思い浮かぶ存在が教員でした」と話します。数学教員として「数学が実際の社会でどう使われるのか」、「なぜ数学を勉強しないといけないのか」という疑問に具体的に答えられる教員でありたいと、大学は教員養成を専門とする大学ではなく、数学の教員免許が取得できる工学系の大学を選んだとのこと。しかし、教員になる意思が強くなるに従い、学びや知識がまだ足りないと感じるようになっていきました。「院に進学し、学びをさらに深めたい」という意思とともに、先生も生徒も何

か疑問をもったときの問題解決につながるものを研究したいと思いました。そして大学院の先、最終的には教員養成そのものに関わっていきたくて、そのために必要なものとして教職修士課程、その後教員をしながら博士課程も視野に入れて考えるようになり、学修課題との関係と最終的に日本の教育全体まで考えて、大阪教育大学の教職大学院を選びました」

「学修課題は『中学校数学における論理的思考力の育成をめざした授業方法の研究』です。中学校数学の証明問題を題材に、生徒たちが問題を順序立てて解いていく際、その道筋を何らかの思考ツールを使用して支援できないか。そしてこれを数学に限定せず他教科を含めた授業方法として成立させることをめざし、最終的には子どもたちがそのような論理的思考力で学校生活・日常生活の問題も解決できるようになる力を育むことが出来ればと思っています。ですからコース内の領域では『広領域』(※)に属しています」

学校実習は週2日、中高一貫校で、2年生と3年生の数学の授業を週6コマ担当、実習先の先生と密にコミュニケーションを取りながら進めています。研究については、今は研究書や論文などを読んで材

料集めをして、ある程度自分の仮説を立てる段階とのこと。「その仮説の実践にまで今期に進めることが出来ればと計画していますが、最終的に評価して検証まで。教職大学院の指導教員とは個人RMという形で月に1、2回、進捗報告や相談を行いながら研究を進めています。教職大学院の2年間で、自分の研究をどこまで深められるか、やりたいことが沢山あって、本当に日々があっという間です」

「教職大学院は、目的意識をもち教育の課題に取り組みたい人が、日本の教育に直結する課題を研究する場所。大阪教育大学連合教職大学院では、大阪であるけれども、あくまで日本全体の視点で考える。僕にとって教員はゴールではなく、スタートラインだと思っています。教員になってから研究していくための手引き、HOWTOを知ることが、教職大学院だと思っています」

大槻さんは温かく穏やかなまなざしでしっかりと教員養成の未来を見つめています。

※教科横断的なテーマや、総合的な学習など、領域に限定しないで実践課題研究などに取り組む領域。

現職教員の教職大学院生 チャレンジングな日々

教職大学院 高度教職開発専攻 援助ニーズ教育実践コース 1回生 **佐藤 弘康さん** (大阪府立北摂つばさ高等学校勤務)

「教員志望でしたが、当時は教員採用の倍率は今と比べものにならないほど高かったこともあり、大学卒業後は個別指導塾に就職。高校生部門の立ち上げ、コンテンツやコース開発を手がけ仕事としては非常に順調でした。しかし、塾の生徒たちの話題はほとんど学校がベース、まず『学校』があって、『塾』があるのだと感じる度に漠然と学校への想いが膨らみました。30代は何か次のステップを、今なら塾での社会経験を生かし違う視点で学校教育と向き合えると、29歳で教員採用試験を受験。現在、教員に転職して9年目。いわゆる脱サラ教員です。屈託のない笑顔で話すのは佐藤弘康さん。大阪府立北摂つばさ高等学校で社会科教員として教鞭をとる傍ら、今年度、改組拡充した連合教職大学院の新コースのうちの一つ、援助ニーズ教育実践コースに通う現職の教職大学院生です。卒業年限を1年延ばす長期履修制度で週2日、高校での勤務後に天王寺キャンパス内の連合教職実践研究科に通う日々です。

「教職大学院進学のきっかけは、教員へ転職して初担任を持った年に不登校生を2人出したこと。生徒指導部も担当し、その後も不登校生や問題行動の対応を担い、先輩教員へ相談するなど、奔走しました。生徒への向き合い自体は前職での経験実績もあるので

解決できたものの、そもそも予防できないのかと強く思うとともに論理的で体系的な学びの必要性を感じるようになりました。ところがその頃、私は学年主任になり、家庭では3人目の子どもが生まれるなどタイミングが合わず一度断念しています」

その後、勤務校で東日本大震災の復興支援活動担当として活動に参加、被災した高校生達と交流するなかで、待ってくれる人がいる強さや尊さ、人と人とのつながりや助け合いの大切さを肌で感じたとのこと。「教職大学院での学びのタイミングを常に計りながらも、同時に教職大学院で自分が研究したい分野の方向性が、様々な経験を経るうちに当初の不登校予防等から徐々にフォーカスされ具体的にになってきたころ、教職大学院に援助ニーズ教育実践コースが新設されることを知り、これだと進学を決意しました。自分の中での学修課題の熟成と進学のタイミングがぴったりと合った時期だったと思っています」

学修課題は、「SNSトラブル予防法とスマホやアプリをポジティブに活用した生徒の課題解決支援」。トラブルや依存など、社会的関心はネガティブな要素に触れがちSNS等ですが、生徒の支援、援助に活用すればその力はポジティブな要素として何倍にもなるはずだ

と考え、その方法の確立をめざしているとの事。

現在、勤務校では主席教諭として、授業改善、政治的教養育成、渉外広報、専門コースの統括、教員研修の充実、ユネスコスクールコーディネータなど様々な役割を担い多忙ですが、だからこそ教職大学院で「やりたいことが一層掻き立てられる」と話す佐藤さん。最後に、そのエネルギーの源と今後の夢や目標について伺いました。「私の行動理念は面白い面白くないか、ワクワクドキドキするかしないか。実は大学卒業時の進路選択は、バンドでプロをめざすか教員になるかでした。自分にとってはどちらも本質的には同じでした。そうして選択した教師の仕事は想像以上に面白く、前職での社会経験も、現場でのがむしゃらな日々も、教職大学院での学びもすべて刺激的で、チャレンジングな日々を送ることが出来るのはそんな軸で動いているからかと。今後は研究を生かし、教科としては社会科の面白さの発信を続けつつ、全ての生徒と教員が楽しく通い、活躍し、自慢できるような学校をつかっていきたいです」

今日も勤務校で現職の教員として生徒に向き合う「佐藤先生」は、同時に「教職大学院生」として教育現場での課題解決のため理論に基づいた実践に意欲的に取り組みます。

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

古着などを利用して、工夫しておしゃれを楽しんでいます。



「桜梅桃李」をモチーフにそれぞれの花を
ふちわき もえ
瀧脇 萌さん
学校教育教員養成課程
中等教育専攻
国語教育コース 3回生



手帳

母とお揃いの手帳で、毎日持ち歩くお気に入りです。スケジュール以外に、技のポイントのメモなども書かれています。

タオル

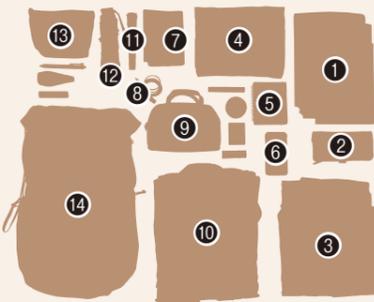
大阪教育大学合気道部は今年50周年を迎えました。

カバン

道着とか色々入れるので大きい鞆になります。道着の洗濯も自分でします。

携帯ケース

好きなお笑い芸人さんのオリジナルキャラクターのケースです。



- ①教科書、勉強ファイル ②財布
- ③袴 ④タオル ⑤ノート帳
- ⑥iPhone ⑦手帳 ⑧電源プラグ
- ⑨化粧ポーチ ⑩道着と帯 ⑪扇子
- ⑫傘 ⑬筆記用具入れ ⑭カバン



主将と副主将で演武して見せて後輩たちに指導



8月に創部50周年記念式典を開催

大教大 NAVI 天

オフショット動画が見られます。

歴史と繋がりを大切に

水曜午後の体育館。大きな掛け声と真剣な表情で合気道部を仕切るのは主将で初段の瀧脇萌さん、今回のバッグの中身の彼女です。

練習前、瀧脇さんの大きなリユックには、しっかりとした道着と黒帯など部活に関わる荷物がまず目立ち、次に勉強道具、そして化粧ポーチなど女子らしい小物が。主将としての力強さと普段の素朴で愛らしさが仲良く収まっています。授業と練習以外の時間は、授業の課題や調べ物、模擬授業の準備など、図書館にいることも多いとの事で勉強熱心な部分も伺えます。

中学生から続けている合気道については「本学の合気道部は歴史があり、先輩方は450人近くおられ今年50周年記念行事も行われました。先輩方は年齢も、活躍先も様々で合気道の指導以外にも色々アドバイスを頂き、この繋がりは本当に貴重です」と語りました。

毎年、次に部を引き継ぐ新3回生達は、自分たちがどのように部を取りまとめていくかを示す目標を表明します。「『桜梅桃李』各自がしっかりと自分の花を咲かせよ」という意味。春の幹部交代式で私ともう一人が3回生になり、辞書で見つけたこの言葉を表明しました。「二人で協力しながらそれぞれの役割を果たす姿を後輩たちに伝えてきた日々は、次の幹部交代式が近づく季節へ向かっていきます。」



附属天王寺小が1泊2日の防災宿泊訓練を実施

附属天王寺小学校が、「防災宿泊訓練」を実施しました。これは、昨年度(平成30年度)から、学校行事として1学期の終業式の日「本校に保護者と児童が自宅から避難してきた」という想定のもと1泊2日で実施しているものです。

終業式を終えた児童らはいったん帰宅し、その後、荷物をもって学校へ避難しました。

訓練では、風呂での入浴代わりにプールでの水浴びをし、限られた水で歯磨きをし、温かい夕食の代わりに非常食を食べるなど、水道・ガスが使えない想定で生活を行うほか、寝る場所を各自段ボールで区切って確保するなど、不便さの中でいろんな知恵を出し合いながら体験的に学びました。

2年目の今回は、新たに校内オリエンテーリングを取り入れました。夜、真っ暗な校舎の中を、縦割りの学年でグループを作り、使えない階段など設定された場所を迂回する方法を相談しながら指示された教室へ向かいました。

この訓練は、教職員、保護者ともに、安全確保のために、どのように動くのか、臨機応変に対応したり協力したりすることも経験する場となっていて、参加した教職員は、「テレビやゲームがなくても、自分たちで楽しみを創り出すことのできる子どもたちは、きっと有事の時、不便な環境・つらい状況でも、明るい存在となることと思います」「災害に対する知識だけでなく、前向きな心も育てていきたい」と今回の感想と今後に向けての意気込みを語りました。



ゼミ室ごぼれ話

第9話

《健康生理学研究室》

小山健蔵先生の健康生理学ゼミに所属するのは学部生6人と院生1人。学部生は3人1組で、活性酸素による酸化ストレスの影響を男女差やBMIなどで比較、身体の炎症により分泌されるインターロイキンを喫煙者と非喫煙者で比較という2つの研究、院生は幼稚園児の自立神経バランスの研究に取り組んでいます。小山先生は超低音ボイスでゆっくり話すので一見怖そうですが、本当に温かく一人ひとりを丁寧に見てくれ、客観的な目線で指導頂くので、皆、先生のことが大好きです。先生の誕生日にお祝いした際の写真を携帯の待ち受けにしているのは私だけではありません。ゼミ室のホワイトボードに掲げられている小山ゼミの教え「養護教諭たるもの、いつもここにこフットワーク軽く、これを大切に子どもたちの痛みや悩みにいち早く気付ける養護教諭になりたいです。ゼミの雰囲気はゆるーくほんわか。皆が良い意味で気を遣わない良い空気なかで、各自が個性と信念をもち、考えをしっかりと伝え合って共同研究を進めています。



(万代玲奈さん 学部4回生)

(キトリ) ×

天遊 vol.49 アンケート

- 本号でよかった記事を下から選んでください。(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
- 【 】 【 】 【 】
- (その他)
- ①特集:連合教職大学院 ②ラボ訪問 ③授業探訪
- ④STUDENTS NOW! ⑤BAGの中身 ⑥附属学校園ウォッチ
- ⑦ゼミ室ごぼれ話 ⑧TOPICS

- 取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。()
- 本誌をどこで手にされましたか。()
- 本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

● 次号以降、毎月「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください 次号以降、毎月「天遊」を送付希望します。
 今後「天遊」の送付を停止します。

ご住所 〒
お名前
お電話番号

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

01 「アクションカード」を活用した防災訓練を実施

大規模地震を想定した防災訓練を柏原キャンパスで実施しました。大阪府東部を南北に延びる生駒断層帯を震源とする震度6強の地震が授業中に発生したことを想定し、教育協働学科棟、事務局棟内にいる教職員ならびに学生約230人が参加しました。

地震発生後ただちに栗林学長の指示のもと災害対策本部を設置し、被害状況の情報収集、学生の避難誘導、負傷者の救護・搬送、消防署への通報と車両誘導、車いす利用者の避難、初期消火、危険防護、避難者への備蓄品給付、緊急放送に係る訓練を行いました。

現在、本学では緊急事態発生時の判断を導き、行動を促すために事前に準備しておく指示書である「アクションカード」の整備に取り組んでおり、今回初めて教員が実際にアクションカードを使って学生の避難誘導にあたりました。

訓練直前まで、防災特別授業を行っていた防災等対策委員会委員の豊沢純子准教授は、「アクションカードを使った初めての訓練であったが、この取り組みを通じて課題を洗い出し、訓練を重ねることで、落ち着いて多様な状況に対応できるよう防災対策の改善につなげていくことが重要」と訓練を講評しました。

この訓練での課題を洗い出してアクションカードを改善し、今後講義室に順次配置して、災害への対策を図っていく予定です。



02 第5回ホームカミングデーを開催



同窓会イベント「第5回ホームカミングデー」を柏原キャンパスで開催しました。大学と同窓会「天遊会」との共催で行い、卒業生、修了生、教職員、学生合わせて約100人が参加しました。

栗林澄夫学長、島内武天遊会会長が歓迎の挨拶を述べたあと、本学夜間大学院スクールリーダーコースで講師も務めた経験をもつ、学校法人興國学園 興國高等学校理事長・校長である草島葉子氏が「教師力で育てる私立学校～only oneというメッセージとともに～」をテーマに記念講演を行いました。

また、伊藤敏雄学生担当理事・副学長が「なつかしの大教大 今の大教大」と題し、天王寺・池田・平野の三分校時代の写真で昔を懐かしみつつ、現在のキャンパスや大学の取り組みなど、近況を報告しました。

当日は放送研究会が司会をつとめ、邦楽研究会やモダンダンス部、フォーク集団べんべん草がパフォーマンスを披露するなど、在学生が卒業生を大いにもてなしました。

講演後の懇談会では、在学生も交えて世代を超えた交流が行われ、最後は学園歌を参加者全員で斉唱し、母校との絆を深めました。

（キリトリ）✂

料金受取人払郵便

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

柏原局 承認 627

差出有効期間
令和元年12月20日～
令和2年10月31日まで

切手不要

（受取人）
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学広報室 行



✂（キリトリ）

公式 Twitter @OsakaKyoikuUniv

公式 facebook https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

公式 Instagram @osakakyoikuuniv

各種イベント、ニュース等を配信しています。是非フォローしてください。

公式アプリケーション Android・iOS スマートフォン対応アプリ

天遊の動画も見れる

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信！
（詳しい使い方はホームページをご参照ください）

大教大NAVI 大阪教育大学入試ナビゲーター

App Store・Google Playから検索。

Available on the iPhone App Store

ANDROID APP ON Google play

大教大

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| ① 本学学生 | ② 本学卒業生 | ③ 本学保護者 |
| ④ 本学教職員 | ⑤ 附属学校生 | ⑥ 附属学校保護者 |
| ⑦ 附属学校卒業生 | ⑧ 附属学校教職員 | ⑨ 名誉教授 |
| ⑩ 教育委員会関係者 | ⑪ 他大学教職員 | ⑫ 他大学学生 |
| ⑬ その他 () | | |

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌（山耀）本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

